

国土地理院による自然災害伝承碑の取組



国土地理院 北海道地方測量部

測量課長 田中 信

1. 国土地理院の役割
2. 自然災害伝承碑の取組
3. 自然災害伝承碑の活用事例
4. 自然災害伝承碑の例（夕張川洪水の歴史）
5. まとめ



測る

位置の基準を定める

Survey

正確な位置情報を
支えます



描く

国土の姿を地図に表す

Portray

全ての地図の基礎となる
地図を作っています



守る

災害から生命を守る

Safeguard

測量技術を活用して
防災情報を収集・提供します



伝える

国土の姿を伝える

Convey

土地の特性を明らかにし、
多様な地理空間情報を
国民に届けます。



自然災害伝承碑とは

- 過去に発生した自然災害（洪水、土砂災害、高潮、地震、津波、火山災害等）の様相や被害状況等が記載されている恒久的な石碑やモニュメント
- 令和元年6月からウェブ地図「地理院地図」で公開（令和元年9月から2万5千分1地形図に掲載）



地図記号



地理院地図
表示アイコン



地理院地図（自然災害伝承碑を表示）




水害碑
✕

概要	
碑名	水害碑
災害名	洪水・土石流 (1907年7月15日)
災害種別	洪水・土砂災害
建立年	1910
所在地	広島県安芸郡坂町小屋浦 四丁目
伝承内容	明治40年(1907)7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。 関連外部サイトへのリンク集
制限事項	

ID:34309-002


「防災基本計画」（令和7年7月 中央防災会議）

（第2編 各災害に共通する対策編、第1章 災害予防）

4 災害教訓の伝承

- 国〔内閣府、国土地理院、各省庁、国立国会図書館、国立公文書館等〕及び地方公共団体は、過去に起こった大規模災害の教訓や災害文化を確実に後世に伝えていくため、大規模災害に関する調査分析結果や映像を含めた各種資料をアーカイブとして広く収集・整理し、適切に保存するとともに、広く一般の人々が閲覧できるよう地図情報その他の方法により公開に努めるものとする。また、災害に関する石碑やモニュメント等の自然災害伝承碑が持つ意味を正しく後世に伝えていくよう努めるものとする。

平成30年7月豪雨（西日本豪雨）



明治40年の豪雨による洪水・土石流被害を後世に伝えるために建立された石碑と**同じ場所で再び土石流被害が発生**

住民のコメント

石碑の存在は知ってはいたが、何の碑かは知らなかった。

避難勧告が出されて2時間後までの避難率
坂町全体：3.9% 小屋浦地区：1.9%

（出典：中国新聞）

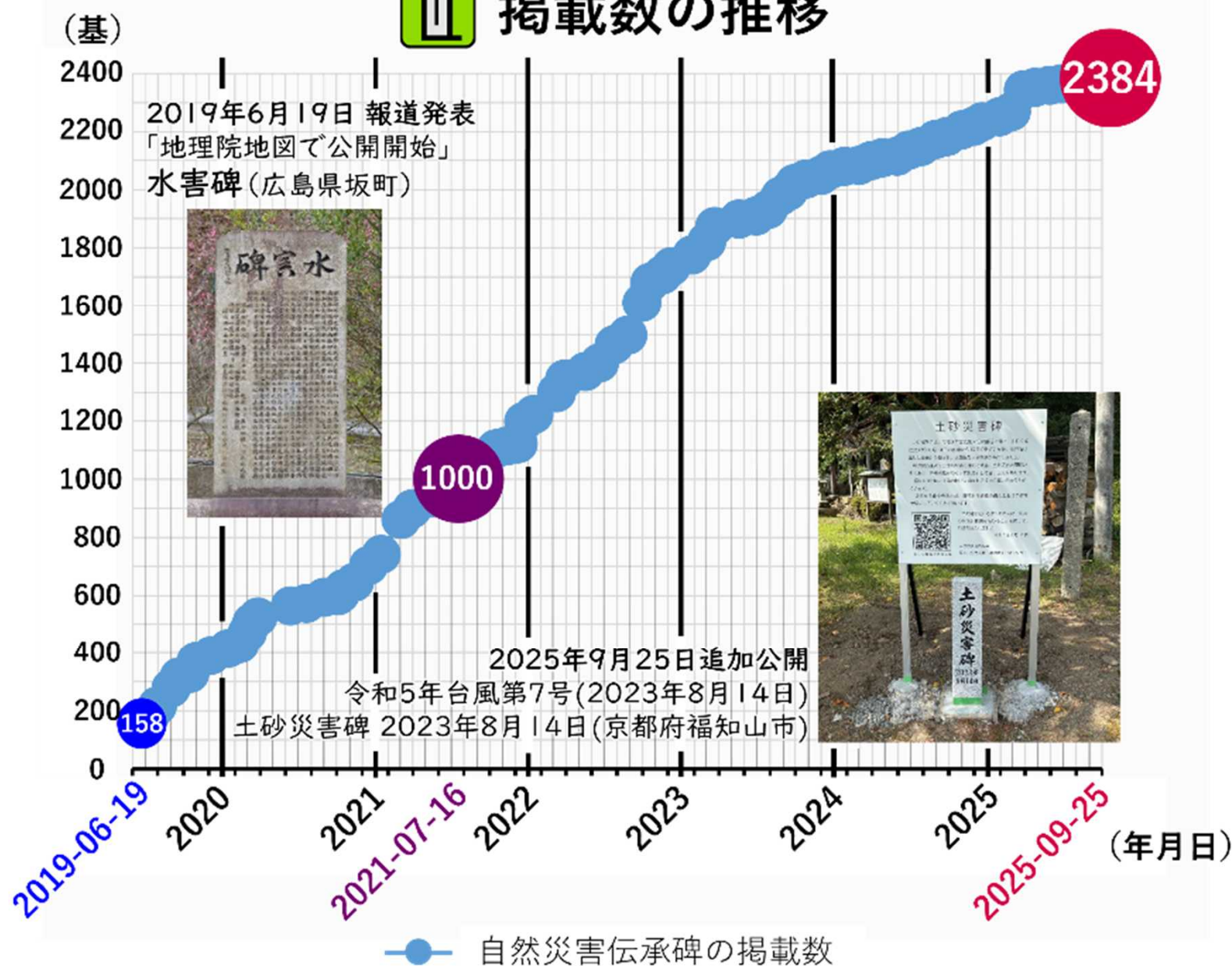
撮影：大阪府警察



【水害碑（広島県坂町）の伝承内容】

明治40年（1907）7月15日、数日来降り続いた豪雨により天地川や総頭川で土石流が発生した。この未曾有の大災害により、小屋浦地区では43戸の家屋がつぶれ、44名の命が奪われた。

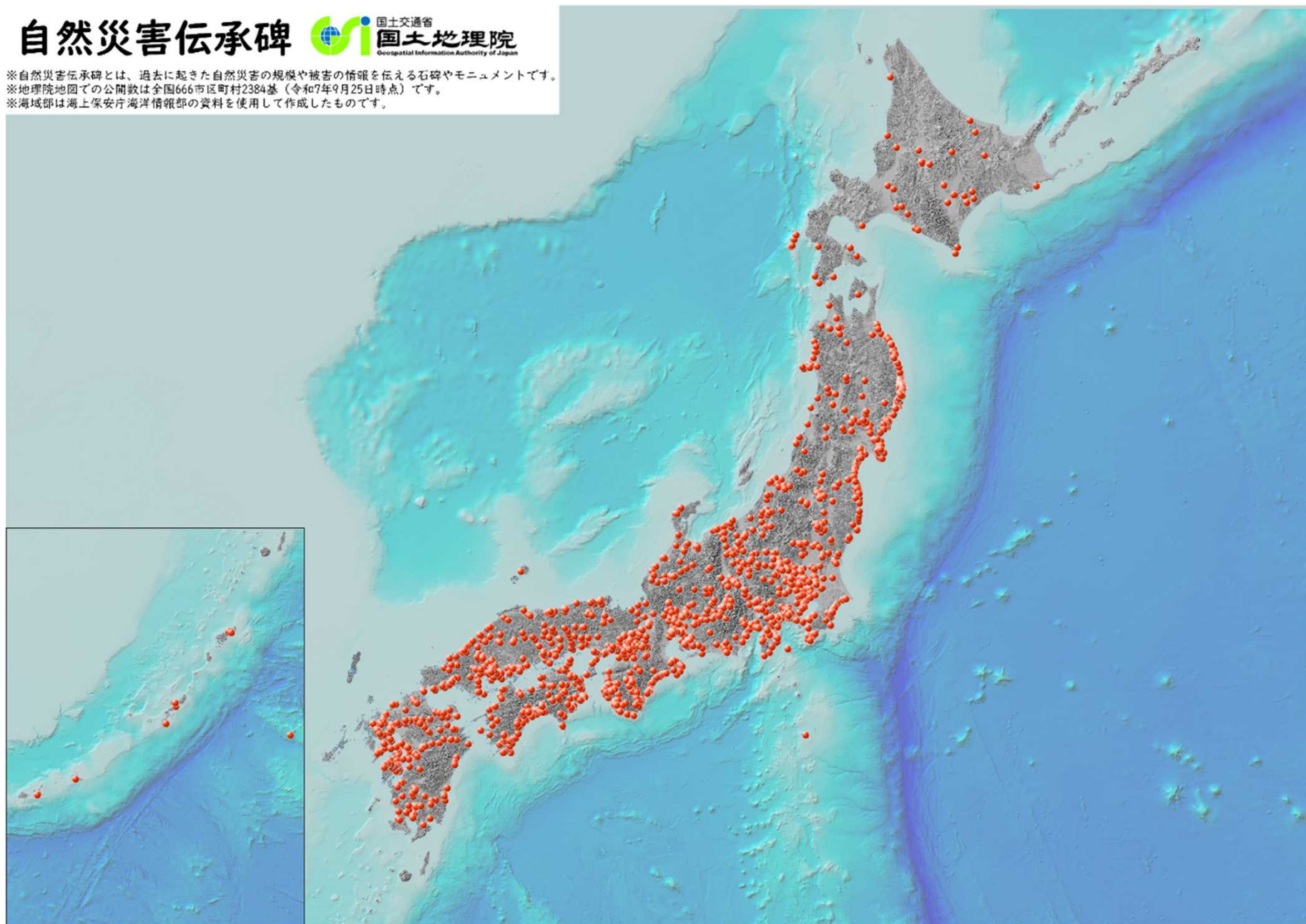
掲載数の推移



自然災害伝承碑



※自然災害伝承碑とは、過去に起きた自然災害の規模や被害の情報を伝える石碑やモニュメントです。
※地理院地図での公開数は全国666市区町村2384基（令和7年9月25日時点）です。
※海域部は海上保安庁海洋情報部の資料を使用して作成したものです。



自然災害伝承碑掲載までの流れ

◆ 市区町村 → 国土地理院へ申請を行う

適切に地域住民に伝え、後世に引き継ぐために、地域の防災計画策定に関わる機関と密な連携を図ることが重要。

市区町村に管内の自然災害伝承碑を把握して頂き、国土地理院へ申請していただく。

①掲載希望の連絡（市区町村→国土地理院）

※事前に申請内容を相談する



②掲載申請書、申請調書を作成（市区町村）



③現地写真の準備（市区町村）



④申請書類、写真データの提出（市区町村→国土地理院）



⑤申請のあった情報を取りまとめ地理院地図を更新（月1回程度）

北海道の自然災害伝承碑 掲載一覧

2025年9月25日 現在

市町村名	伝承碑数	伝承されている災害
函館市	1	昭和48年集中豪雨(1973)
旭川市	1	昭和22年8月洪水(1947)
帯広市	3	洪水(1922、1962、1963)
北見市	1	洞爺丸台風(1954)
留萌市	1	昭和63年8月洪水(1988)
登別市	1	昭和36年集中豪雨(1961)
松前町	2	寛保津波(1741)
知内町	1	昭和48年集中豪雨(1973)
鹿部町	2	火山噴火(1929)
乙部町	1	地すべり(1962)
奥尻町	4	北海道南西沖地震(1993)
南幌町	1	明治31年洪水(1898)、昭和7年洪水(1932)
栗山町	1	明治31年洪水(1898)
北竜町	1	洪水(1961)
美瑛町	2	火山噴火・泥流(1926、1962)
上富良野町	7	火山噴火・泥流(1926)
天塩町	1	積丹半島沖地震(神威岬沖地震)(1940)
津別町	1	津別町本岐地すべり(1953)
佐呂間町	1	平成18年11月竜巻(2006)
湧別町	1	明治31年洪水(1898)
厚真町	2	平成30年北海道胆振東部地震(2018)
平取町	1	大正11年8月洪水(1922)
新冠町	1	昭和30年水害(1955)
えりも町	2	昭和三陸地震(1933)
新ひだか町	1	昭和30年水害(1955)
鹿追町	1	洪水(1981)
池田町	1	洪水(1898、1919、1922)
豊頃町	2	洪水(1898、1922)
浦幌町	2	昭和50年洪水(1975)、昭和63年洪水(1988)
浜中町	1	1952年十勝沖地震(1952)、チリ地震津波(1960)



北海道内 30市町48基 を掲載中

- 自治体への自然災害伝承碑掲載の働きかけ
- 北海道開発局など関係機関との連携による登録推進
- 当学会北海道支部「北海道自然災害史研究WG」へのオブザーバー参加による情報交換
- 出前講座や学校等への講師派遣



広島県福山市立熊野小学校における活用

学校内に設置されている水害碑について、同校6年生を対象に、水害碑がなぜ建てられたのか、水害碑の碑文に書かれている内容を調べ、その内容を発信していこうという総合学習。



学習の内容

1. 水害碑について調べよう

水害碑の設置場所・設置要因を調査。なぜ、熊野小の碑は地理院地図の登録されていないのか疑問

2. 碑文・日記からわかることは何だろう

碑文・学校に伝わる『水害日記』から当時の状況を把握

3. 専門家の方に話を聞いてみよう

広島大学と国土地理院共同で出前授業。地図記号ができた経緯を説明、地理院地図の使い方を体験

4. 実際に歩いて調べてみよう

広島大学がフィールドワークを実施。地図を片手に現地調査。災害イメージの明確化

5. 調べたことをまとめよう

報告書・プレゼン資料を作成

6. まとめたことを伝えよう

福山市危機管理防災課に学習成果を発表。地理院地図への登録申請を要請

海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 高知コア研究所の取組

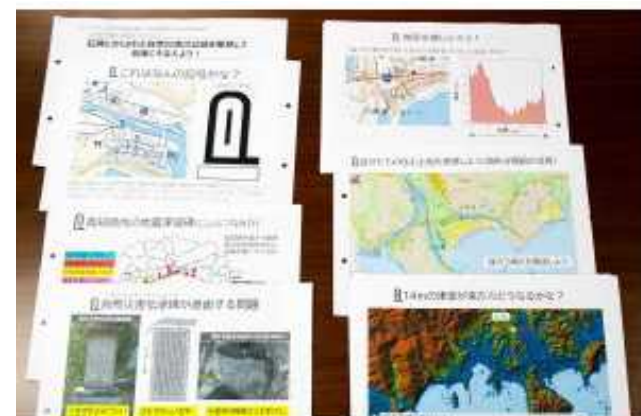
日本学術振興会事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」の一環として、風化が進む石碑を3Dデジタル技術で記録保存し、防災教育に役立てる先進的なイベントを継続的に開催。



参加者が作成した3Dモデル等
(海洋研究開発機構HPより)



講義・現地観察の様子
(海洋研究開発機構HPより)



学習会資料

河西訓導殉職之碑を訪ねるノルディック・ウォーク（静岡県浜松市）

地域課題解決事業として、都田地区の史跡等を散策するとともに、水難事故について考える機会として、増水した都田川で都田小学校の児童を助けて亡くなった「河西哲英訓導」について、広く周知が行われた。



河西訓導殉職之碑



イベント当日の様子
(浜松市提供写真)

自然災害伝承碑の活用事例

自然災害伝承碑の活用事例

- [活用分野別の事例集](#)
- [地図上での自然災害伝承碑の活用方法](#)
- [防災・地理教育支援コンテンツでの活用](#)

について紹介します。

活用分野別の事例集

自然災害伝承碑の活用事例を紹介しています。（画像をクリックすると、それぞれの紹介ページに移動します。）

教育分野での活用事例



地域学習における活用事例



地方公共団体のホームページにおける活用事例



映像作品・報道での活用事例

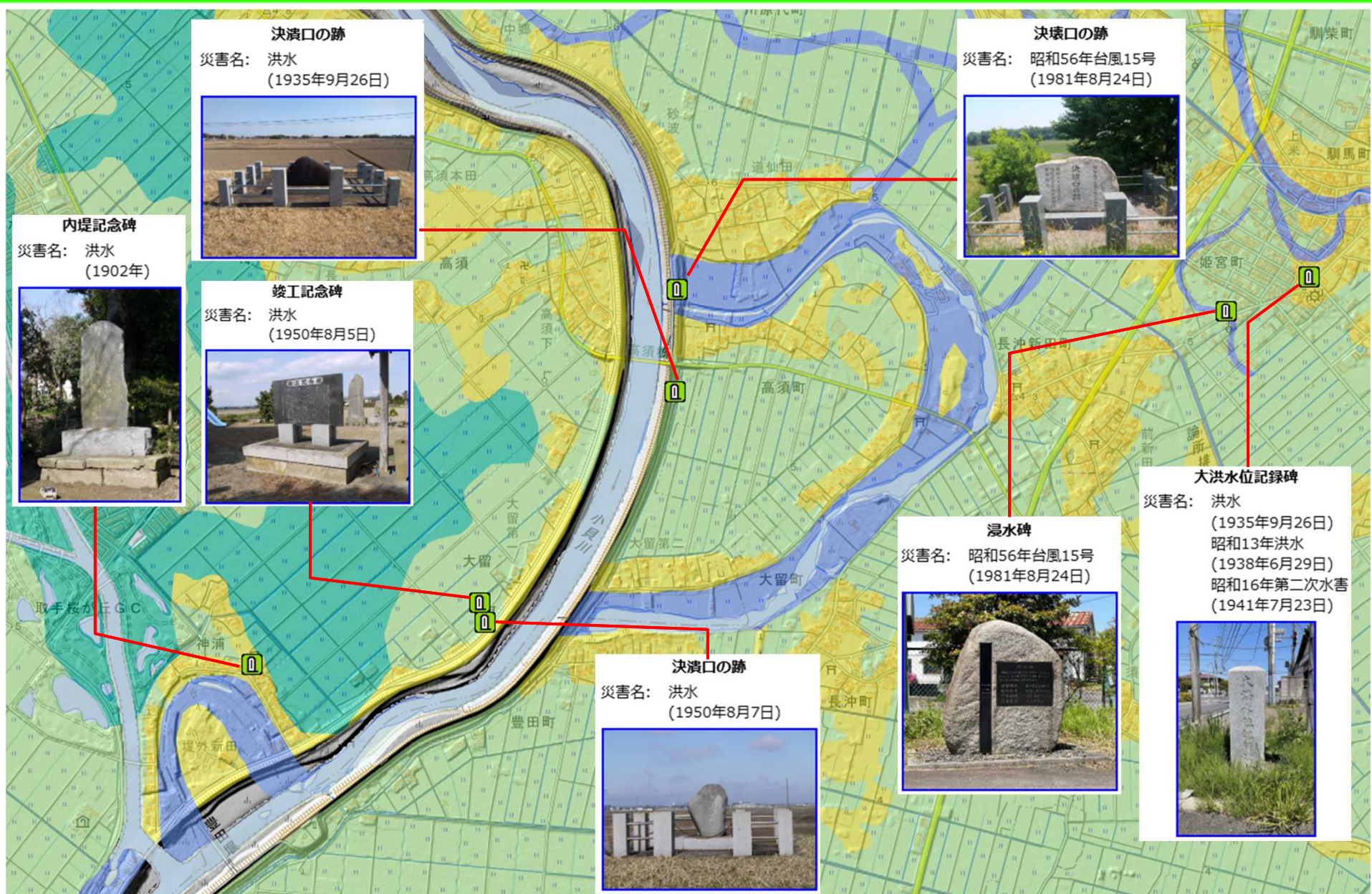


協力:ACジャパン 2023年度作品



自然災害伝承碑の活用事例はこちら↓

https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_utilization.html

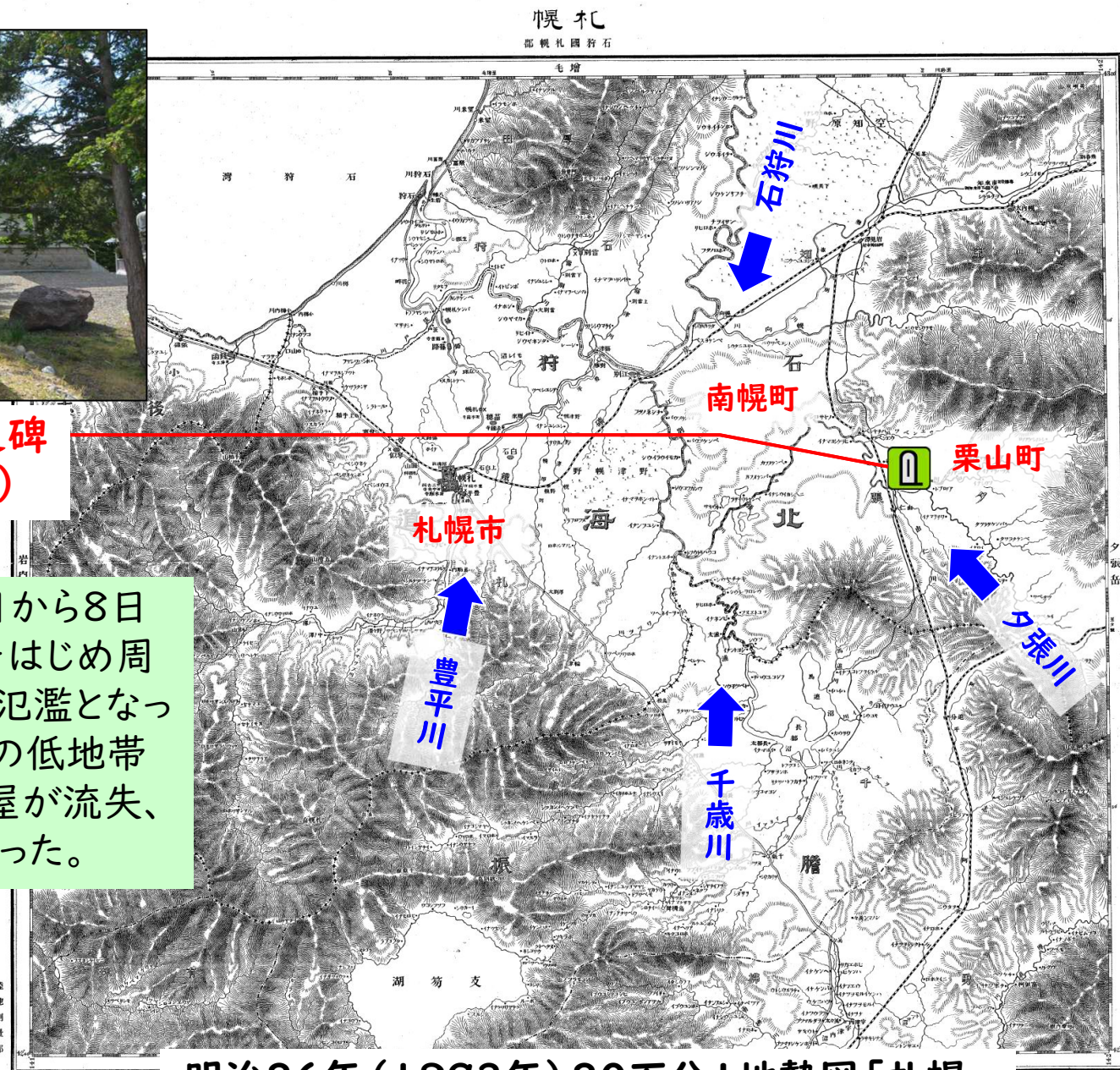


自然災害伝承碑の例 (夕張川洪水の歴史)

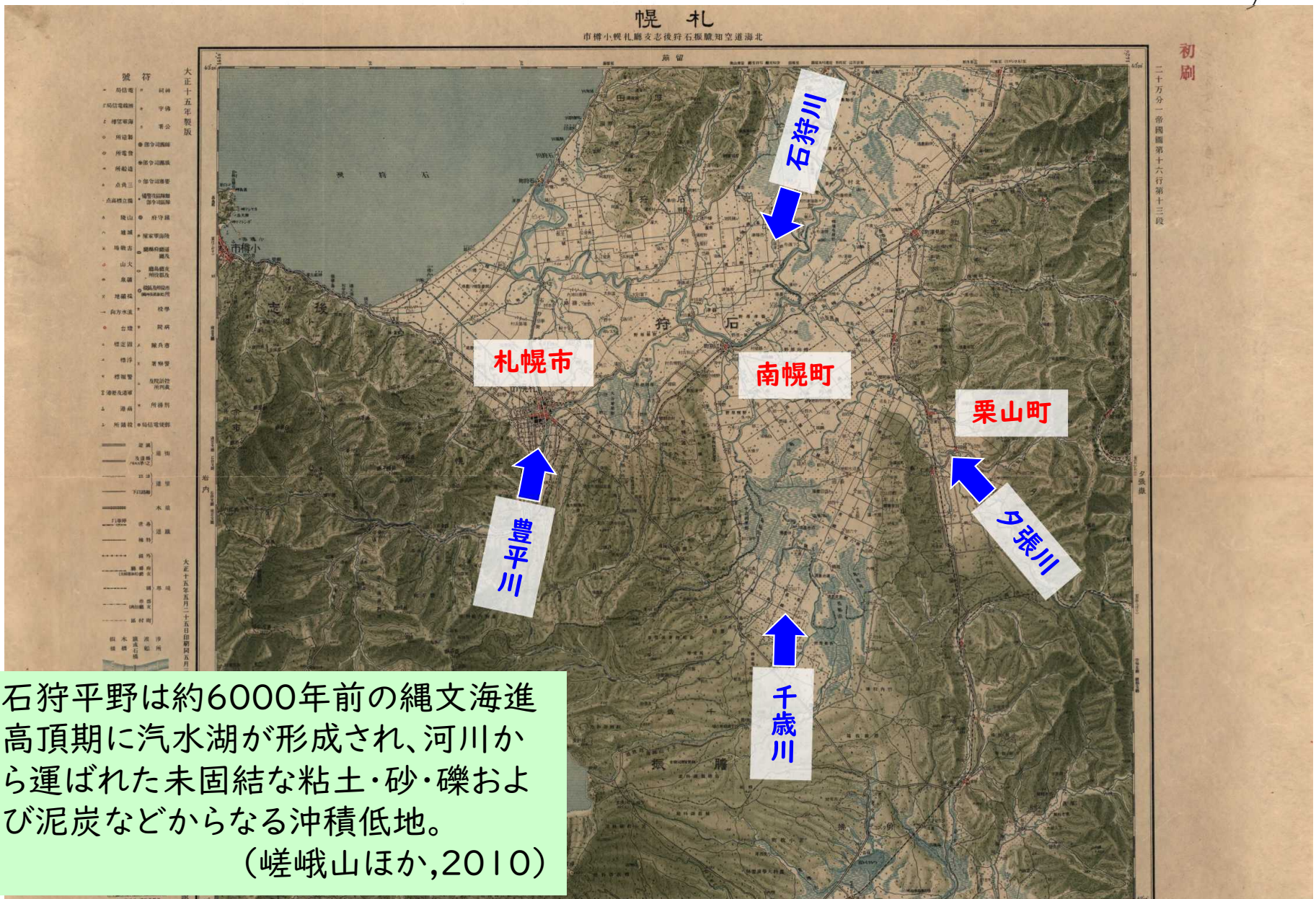


水難溺死者供養之碑
(明治32年建立)

明治31年(1898)9月6日から8日までの大雨により夕張川をはじめ周辺河川が一斉にあふれ大氾濫となった。角田(現在の栗山町)の低地帯は一面浸水し、92戸の家屋が流失、82名の尊い命が犠牲となった。

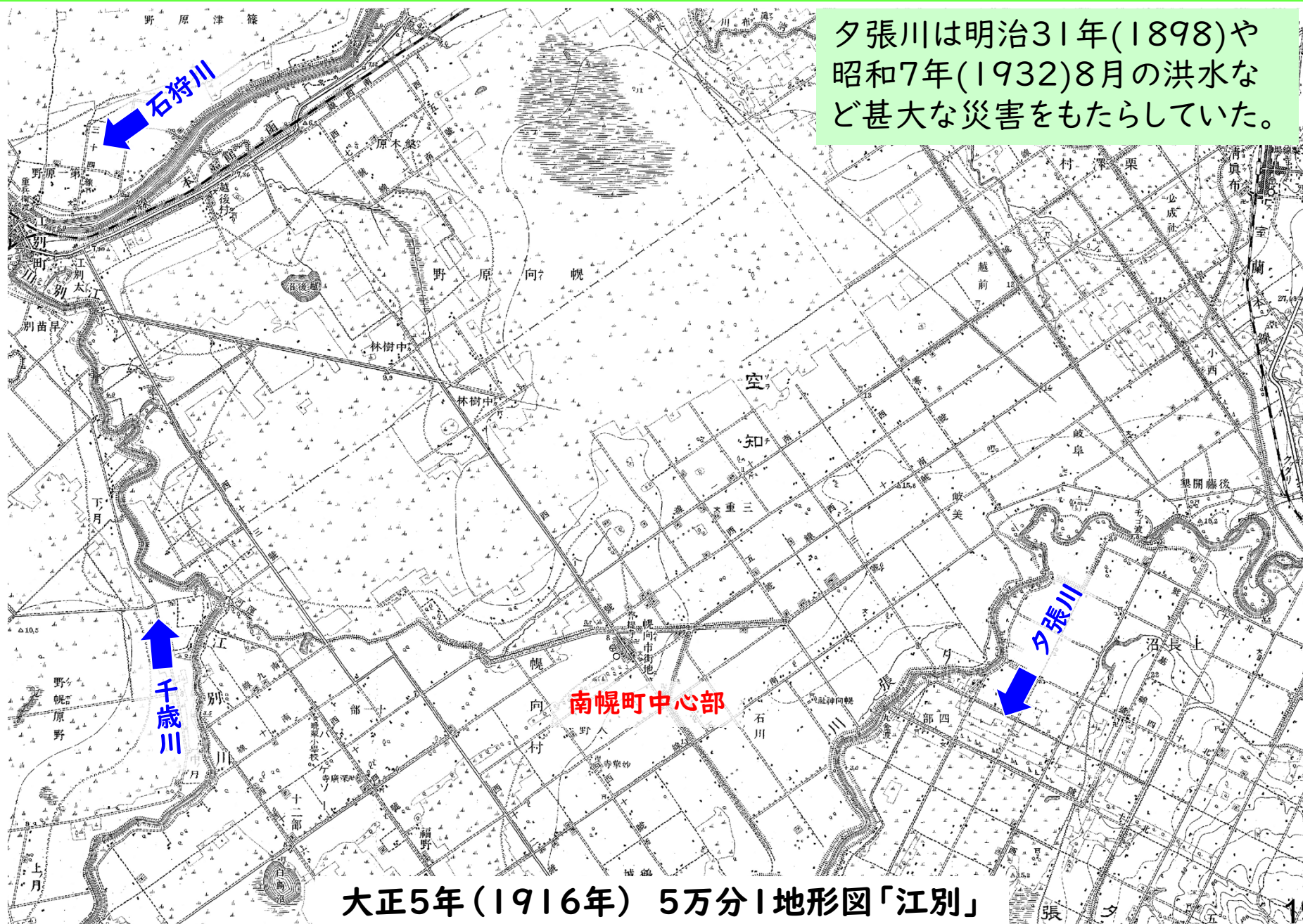


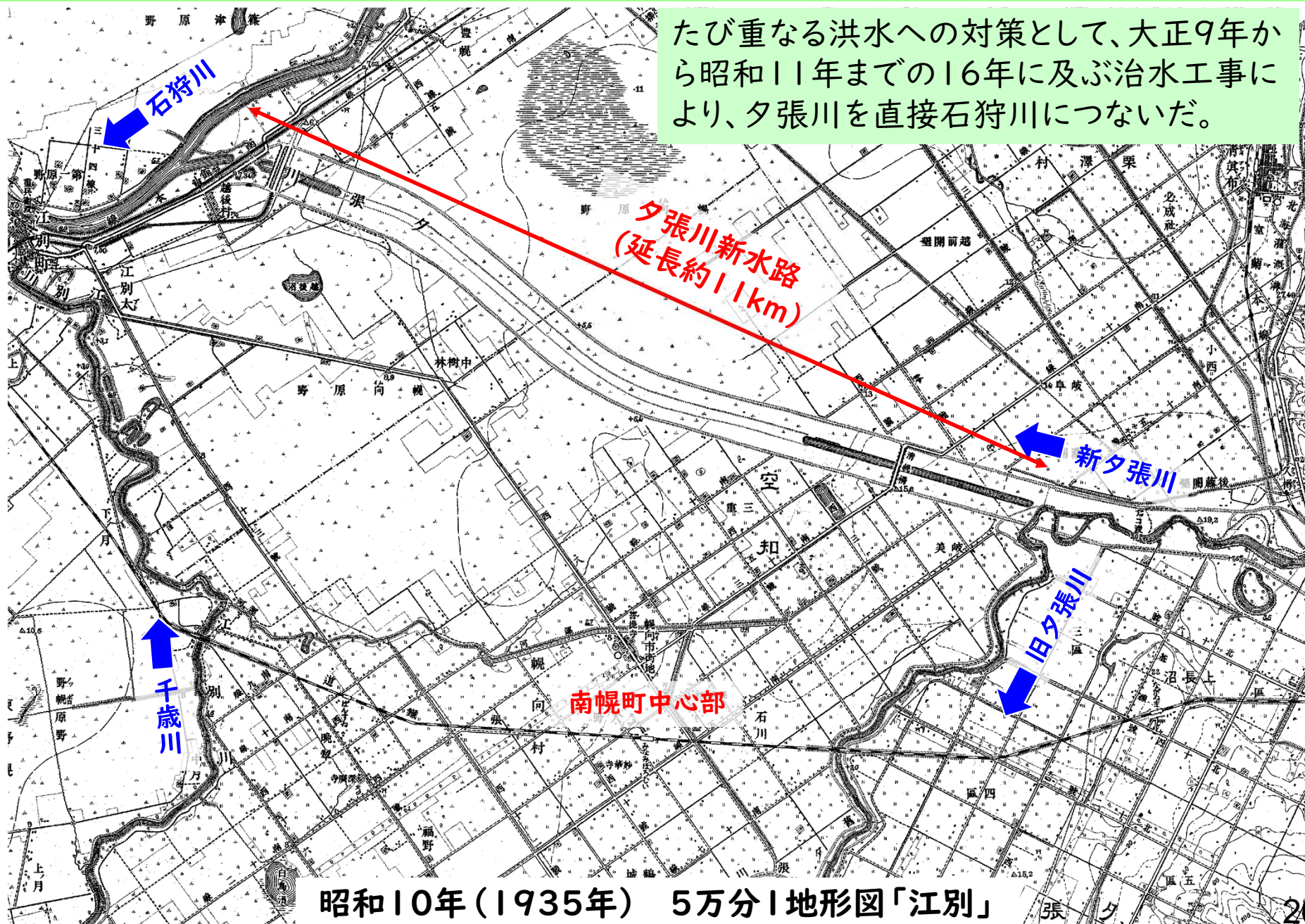
明治26年(1893年)20万分1地勢図「札幌」



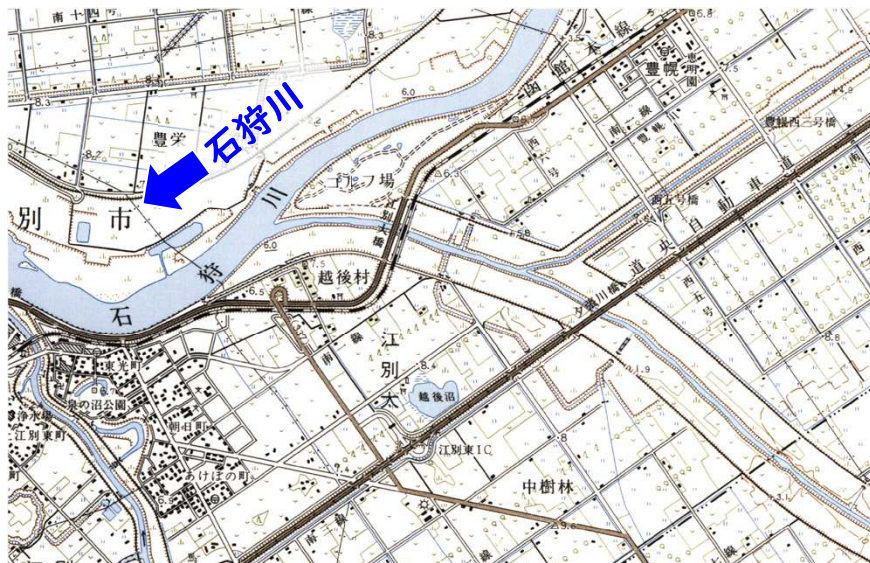
大正15年(1926年)20万分1地勢図「札幌」

自然災害伝承碑の例 (夕張川洪水の歴史)





自然災害伝承碑の例 (夕張川洪水の歴史)



南幌町をはじめ夕張川流域の町は、水と楽しむ安らぎが手に届いた町にかわった。この碑は、治水事業に関わった先人たちに感謝の意を捧げるため建立した。隣接して、治水事業の功績を讃える碑が並んで建立されている。



治水感謝の碑 (平成16年建立)



出典：広報なんぼろ（2023.7 No.728）

7月1日は 南幌町治水感謝の日です

南幌町では、夕張川の治水工事で犠牲になった方々の供養と治水工事の成功に感謝するため、毎年7月1日を南幌町治水感謝の日としています。

南幌町の開拓当時は、石狩川、千歳川、夕張川の各河川に囲まれた状態で、いったん大雨が降ると常に夕張川が氾濫し幾度となく住民に悲惨な災害をもたらしました。

南幌町を水害から守るため、明治43年から昭和11年までの27年間の長きにわたり、その半生を夕張川治水事業に尽くされたのが、南幌町更生の恩人、保原元二氏ほばらもとじです。

治水事業の内容は、長沼町との境界を流れる曲りくねった夕張川を千歳川から絶縁し、直接石狩川へつなぐための放水路を掘るという、当時では画期的な大事業です。治水工事の成功は、南幌町の歴史を大きく変えました。

三重緑地公園内には、保原氏の胸像並びに彰徳碑、治水感謝の碑があり、南幌町の発展を共に見守っていただいております、毎年、三重緑地公園内において治水感謝式を執り行っています。

水害・治水写真展

治水感謝の日にあわせて、ぼろろで「水害・治水写真展」を行います。

展示期間 7月16日（日）まで

場 所 ぼろろ2階ロビー



- 自然災害伝承碑に記された碑文等の情報は、過去の災害により自らの身に起きた出来事を現在の我々に伝えんとする先人たちの貴重なメッセージ
- 国土地理院の取組は、そのメッセージをウェブ地図や地図記号の形として遺すことで、風化させることなく過去の教訓を後世に分かりやすく伝え続けるもの
- 防災教育等での教材としての活用などを通じて、地域の理解を深め、住民の防災意識、ひいては災害時における自助力向上に寄与できるもの
- 自然災害伝承碑の取組は、単に情報を蓄積していくだけにとどまらず、過去の災害の記憶を“見える化”し、地域の防災力を向上させるためのアウトリーチにこそ意義があり、今後も様々な関係者が連携して取り組んでいく必要がある